

研究協力をお願い

岐阜県総合医療センターでは、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

なお、研究への参加をお断りになった場合でも、将来にわたって当センターにおける診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究名：炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）診療における新規バイオマーカー（LRG、便中カルプロテクチン）の有用性に関する検討

1. 研究対象者および研究対象期間

2017年6月から2022年10月までに岐阜県総合医療センターで新規バイオマーカー（LRG もしくは便中カルプロテクチン）を測定した IBD（潰瘍性大腸炎、クローン病）の患者様。

2. 研究目的・方法

潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患（IBD）の診療において、寛解維持を長期に達成することが目標となる。そのためには正確な病勢把握が重要である。病勢把握のために内視鏡検査、臨床症状の確認、血液検査（WBC、CRP）を行なっているが、最も信頼性のある指標となる内視鏡検査は患者への負担が大きいため頻回に施行することは難しい。一方で、臨床症状・血液検査（WBC、CRP）結果は内視鏡検査所見と乖離が見られることが多い。近年、IBDによる炎症の指標として、便中カルプロテクチン・ロイシンリッチ α グリコプロテイン（LRG）が保険収載された。いずれも、これまでの血清マーカー（WBC、CRP）と比較して、疾患活動性との相関が強いとされている。これらのマーカーを測定することで、正確に病勢を把握し、適切な治療介入（薬剤調整、処置など）や内視鏡検査を行うことができると考えられる。新規バイオマーカーを測定した症例に関して、その有用性や課題についても検討したい。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

新規バイオマーカー（LRG、便中カルプロテクチン）測定値、対象疾患、背景疾患、臨床症状、内視鏡検査結果、治療内容、血液検査結果、転帰など。

4. 個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

5. お問い合わせ先

岐阜県総合医療センター 消化器内科 小澤 範高 電話番号:058-246-1111